

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業				
事業名	ARTS FOR EVERYONE ココロのサブリ			助成:文化庁			
目的・内容	施設の特性を活かしながら、誰もが芸術文化に親しむ環境を生み出していくために実施。芸術文化に親しみがない方々に、多様なジャンルのアートを届け、新しい鑑賞者開発を行う。また、実行委員会の裁量を拡大し、民主体の運営や、若者の参画を積極的に取り入れる。出演者は県内の人財を活用するため、県内で活動する優れた団体、個人を実行委員会で決定。						
開催日時	①6/7、②9/6、③10/17、④11/28、⑤12/5、⑥12/23、⑦2/7 12:05~12:55						
会場	とりぎん文化会館 フリースペース						
入場料・参加費	無料						
集客状況	入場者数 1,559名						
事業費状況	予算額	収入	0円	支出	1,275,000円	収支比率	0%
	決算額	収入	0円	支出	494,440円	収支比率	0%
来場者アンケート(主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素晴らしい演奏が無料で聴くことができ、満足しています。</li> <li>・生演奏を身近に聴くことができよかった。</li> <li>・ココロのサブリいただきました。明日からの力にします。</li> <li>・フリースペースの演奏はホールと違って気楽に、そして小さい子どもも聴けるので、とても良いと思います。飲食がサービスされているのもとても良いです。</li> <li>・幼児連れでのクラシック公演は難しいので、無料でのこうした公演は大変うれしいです。</li> <li>・ダンスがしたいというわが子連れを連れて観させていただきました。</li> <li>・今回のプロデュース(企画・進行)を学生がしたことは、おもしろい取り組みであり、たいへん良い。</li> <li>・出入口の風に気が散ったのが残念です。</li> </ul>						
1次評価(内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが気軽に芸術文化に触れられるよう、多様なジャンルのアートを提供して、文化に親しむ環境づくりを行った。</li> <li>・公演1回あたりの入場者が約222人と、昨年度に比べて90人近く増加し、過去最高となった。</li> <li>・鳥取大学と連携してインターンシップを導入し、アートマネージャーの育成が図れたことは本事業の今後の展開に繋がった。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度から新たな事業運営を行ったが、アートマネージャーの人材確保や舞台演出に課題が残った。</li> <li>・鑑賞公演のプレ事業としての位置付けが浸透できなかった。</li> <li>・質の担保という点で、地元アーティストだけではまかないきれない部分が出てきた。</li> </ul>						
2次評価(財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事情があって梨花ホールや小ホールに入れられない人も多いため、気軽に立ち寄れるこの公演は貴重だと思う。</li> <li>・必要なことをわきまえ、段階的に推進できている。</li> <li>・インターンシップの学生がプロデュースしたことは、高く評価できる。ジャンルの充実を図れたことも評価できた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質の向上と掛かる経費は正比例するが、予算は限られているので、この事業をきちんと見つめなおし、評価しなおす必要がある。</li> <li>・質の確保のため、出演者も大きな経費負担を行って出演しており、場合によっては、出演謝礼では足りない場合もある。そのあたりのことも、主催者側は認識して、予算を組んでほしい。</li> <li>・本事業が県民に浸透していくよう努力が必要と思う。</li> </ul>						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入場者は増加したが、本事業が必ずしも浸透しているわけではないので、これからは戦略的に広報に努めていく。</li> <li>・引き続き、アートマネージャーの人材確保を行うとともに、インターンシップ制度については、今年度の成果と課題を鳥取大学と共有して改善し、次年度に繋げる。</li> <li>・舞台演出については、できる限りテーマに沿った空間を提供できるようにしていく。</li> <li>・プレ事業としての位置付けを明確にするとともに、質の確保と予算のバランスを踏まえて事業を実施していく。</li> </ul>						